

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.33	-	-	3.2
1 音環境						3.3	0.15	-	-	3.3
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		Dr=40。				3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音		天井・床の二面に吸音材を使用。				4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.0	0.35	-	-	2.0
2.1 室温制御						2.7	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能						2.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						2.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.8	0.25	-	-	3.8
3.1 屋光利用						3.6	0.30	-	-	
1 屋光率		屋光率:2.0%以上2.5%未満である。				4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 屋光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 屋光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		設計照度:500lx以上。				4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		明るさセンサーによる自動調光制御を行っている。				5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料の使用。				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量		換気量:30m <sup>3</sup> /h人以上。				4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		外気取入口は汚染源の無い方位に設けられており、かつ外気取入口と各所排気口の離隔6m以上。				4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙として、外部にも喫煙スペースは設けられていない。				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						2.5	0.40	-	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ						1.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室部分の天井高は2.7mであり、窓も設置されている。				4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		自販機+執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースの採用。				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		設計事務室:床タイルカーペット6.5(OA707-H100)、壁ビニールクロス(PBt12.5)、天井岩綿吸音板t9				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、汚水排水VP(B)、雑排水VP(B)、Eは不使用。				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						1.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
3.1 空間のゆとり			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.1以上0.3未満である。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			<b>1.0</b>	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		ケーブルラック、EPS及び配管・配線により、仕上材を痛めずに改修・更新が可能である。	<b>5.0</b>	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		ケーブルラック、EPS及び配管・配線により、仕上材を痛めずに改修・更新が可能である。	<b>5.0</b>	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			<b>-</b>	<b>0.37</b>	-	-	<b>2.1</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			<b>-</b>	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.65	<b>5.0</b>	0.06	-	-	<b>5.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.12	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		BEI <sub>m</sub> =0.61、LED照明設備を導入。	<b>4.9</b>	0.59	-	-	<b>4.9</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.24	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	
4.1 モニタリング			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	
4.2 運用管理体制			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			<b>-</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
1 水資源保護			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.8</b>	0.60	-	-	<b>3.8</b>
2.1 材料使用量の削減			<b>3.0</b>	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		岩綿吸音板(天井)、OA707-(床)、断熱材(壁、スラブ下)	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			<b>3.0</b>	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用し、OA707-も採用している。	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3 冷媒			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			<b>-</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=72%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			<b>1.0</b>	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 振動			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3 悪臭			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	
3 日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない。	<b>4.0</b>	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			<b>3.0</b>	0.30	-	-	